

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃，機関銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に，近年，リオデジャネイロ市及び郊外のファベラ（貧民街）を中心に，麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し，治安に重大な影響を与えてきた。これを受け，軍警察は，2008年に最初の軍警察治安構築部隊（UPP）をドナ・マルタ地区のファベラに設置し，以降，大規模な制圧作戦を継続している（2015年4月現在，リオ市内ファベラ計40カ所にUPPを設置）。

UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか，治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており，流れ弾による一般市民への被害も散見される。

また，依然として貧困層の若者による「アハスタウン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件がコパカバーナ等の海岸及び幹線道路沿いで後を絶たない（2015年に入ってから，これまで安全と言われてきた南部地区の地下鉄内においてもアハスタウンが連続発生）。治安当局もこれらの取締りを強化しているが，少年法の問題もあり，逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまう等，警察による取締りが治安改善に直結されていない問題がある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）第4四半期総括

州政府は凶悪犯罪対策に注力しており，殺人，強盗の発生数はUPPが設置された2008年以降2012年まで減少傾向にあった。しかしながら，2013年初頭から再び増加に転じ，2014年以降，その傾向が特に顕著になっている。また，窃盗総数及び犯罪総数にいたっては，過去10年間軒並み増加傾向にある。

一般治安悪化の理由については，相次いで新設されたUPPに多数の人員を配置したため，既存の警察署の人員不足が深刻化したことや，リオ+20，コンフェデ杯，ローマ法王来訪，昨年ワールドカップと大規模行事が立て続けに開催され，これらに対する警備及び大規模デモ対策に多くの人員を割かれ，人員不足が一層顕著になったことなどが指摘されている。

2015年2月には，ガレオン国際空港からセントロ地区へのアクセスルートにおいて，通行する車両を狙ったアハスタウン（集団強盗）が発生して被害が出ている。また，3月には，これまで比較的安全と言われてきた南部地区（ゾナ・スール）において短時間誘拐（電撃誘拐）等の凶悪事件が増加したほか，市民の足である地下鉄車内でもアハスタウンが連続発生するなど体感治安の悪化が懸念されている。

2013年のリオ市の人口10万人当たりの犯罪発生率は、日本との比較で殺人が約28倍（2012年は23倍）、強盗は約375倍（2012年は300倍）と前年を大きく上回っている。

1. リオ州犯罪発生状況 2015年1月（前年同月比増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	442 (+54)	113 (-7)
強姦	485 (-62)	137 (+56)
商業施設強盗	664 (-112)	330 (-24)
住居侵入強盗	105 (-18)	37 (-14)
車両強盗	2873 (-343)	1404 (+63)
路上強盗	6978 (+310)	3664 (+356)
交通機関内強盗	719 (+52)	512 (+86)
携帯電話強盗	920 (+441)	545 (+231)
強盗総数	14406 (+530)	7765 (+774)
窃盗総数	16344 (-940)	9345 (-414)

2. 南部地区（ZONA SUL）犯罪発生状況 2015年1月（前年同月比増減数）

フラメンゴ・ボタフォゴ地区

殺人	1 (+1)
商業施設強盗	14 (-6)
住居侵入強盗	0 (-3)
車両強盗	18 (-3)
路上強盗	155 (-25)
交通機関内強盗	11 (-2)
携帯電話強盗	24 (-1)
強盗総数	277 (-32)
窃盗総数	523 (-76)

コパカバーナ地区

殺人	1 (+1)
商業施設強盗	8 (-1)
住居侵入強盗	0 (-2)
車両強盗	9 (+9)
路上強盗	74 (-36)
交通機関内強盗	11 (+3)
携帯電話強盗	10 (-1)
強盗総数	155 (-63)
窃盗総数	1415 (-120)

イパネマ・レブロン地区

殺人	3 (+ 2)
商業施設強盗	6 (- 4)
住居侵入強盗	1 (- 1)
車両強盗	4 (- 5)
路上強盗	71 (- 49)
交通機関内強盗	8 (- 8)
携帯電話強盗	18 (- 4)
強盗総数	170 (- 72)
窃盗総数	688 (+ 46)

3. 一般事件等

(1) 市内から空港へのアクセスルートにおける集団強盗の発生

2月4日午前3時40分頃、リオ市中心部とガレオン国際空港とを結ぶ幹線道路である「リーニャ・ベルメーリャ通り」において、5人の武装したグループによる連続自動車強盗が発生した。事件が発生したのは、ガレオン空港近くのインフラエロ（空港公団）ビル付近で、容疑者らは、セントロ地区に向かう車線上に、自らの車両で車線を塞ぐ形で駐車して渋滞を誘発すると、後方から来る車両を次々と襲っていった。危険を察した多くの車両が高速道路を逆走したことから、現場周辺には大きな混乱が生じた。

(2) ブロッコス（BLOCOS・路上パレード）における銃撃戦の発生

カーニバル期間中の2月15日（日）深夜、リオ州パラチ市のセントロ・イストリコ（旧市街）において、ブロッコス（路上パレード）の最中に、麻薬密売組織同士の銃撃戦が発生し、麻薬密売組織のメンバー1人が死亡したほか、流れ弾により伯人観光客等9人が負傷した。

(3) ドイツ人が被害者となる強盗殺人事件

2月17日（火）午後、セントロ地区ウルグアイアーナ通りにおいて、ドイツ人男性が強盗に襲われ、抵抗した際にナイフで刺された。男性は病院に搬送された後に死亡が確認された。また、同行していた被害者の妻もナイフで刺されて負傷し、病院に搬送された。

(4) 地下鉄内における拳銃使用集団強盗事件

3月12日（木）午後9時30分頃、リオ市地下鉄ラルゴ・ド・マシャード駅からフラメンゴ駅方面に向かう地下鉄車内において、4人組の犯人グループのうち2人が拳銃を手に乗客を次々と脅しながら荷物を奪い、フラメンゴ駅に到着したところで乗降口から降りて逃げ去った。車両内にいた約30

人の乗客のうち少なくとも16人が携帯電話、指輪、時計などを奪われ、州文民警察に被害届を提出している。

(5) 地下鉄内における拳銃使用集団強盗事件

3月25日午後10時30分頃、リオ市地下鉄1号線グロリア駅からカテチ駅に向かう地下鉄車内（地下鉄1号線は館員数名が通勤に使用）において、5人組の犯人グループのうち1人が拳銃を手に、その他4人はナイフを手にし、それぞれが乗客を次々と脅しながら荷物を奪った後、カテチ駅に到着したところで車両から逃げ去った。車両内にいた約20人が鞆、携帯電話などを奪われ、うち7人が州文民警察に被害届を提出している。

(6) 市内トンネル内で集団強盗事件が発生

3月27日（金）午前6時15分頃、リオ市内のサンコハド地区からガベア地区に抜けるトンネルで集団強盗事件（アハスタウン）が発生した。

6人の犯人グループが、3台のオートバイにそれぞれ2人ずつ乗車し、トンネル内で発生していた渋滞を利用して、運転手を次々と脅し、金品を奪っていった。駆けつけた軍警察官が6人のうち1人を逮捕したが、残る5人はオートバイを捨てて徒歩で逃走した。その後、犯人らはラゴア地区で車両1台を盗み、当該車両で通行人をはね、怪我を負わせながらそのまま逃走した。

(7) 邦人被害事案

ア 窃盗事件

12月28日（水）午後2時頃、旅行者がイパネマ地区ファルメ・デ・アモエド通り付近の砂浜で海水浴をしていた際、砂浜に置いていたカバン（財布、スマートフォン等在中）を何者かに持ち去られた。

イ 窃盗事件

12月29日（月）午後0時頃、旅行者がコスメ・ベリョ地区からバスに乗車し、ボタフォゴ地区のショッピングセンター（リオ・スル）前で下車しようとしたところ、所持していたリュックのチャックが開いており、在中していた一眼レフカメラ一式（時価合計約6万円相当）がいつの間にか無くなっていることに気づいた。

ウ 強盗事件

1月11日（日）午後0時頃、旅行者がレブロン地区のアフラニオ・デ・メロ・フランコ通りを海岸方面に向かって歩いていたところ、すれ違った少年グループの一人が、いきなり旅行者が身につけていた鎖型のネックレス（金製・時価約10万円相当）を引きちぎると、そのまま海岸方向に持ち去った。

エ スキミング被害

1月11日（日）から14日（水）にかけて、旅行者がクレジットカードのスキミング被害に遭い、計7,770リアルが引き下ろされた。（同旅行者は、引き下ろされた現金に覚えは無く、同月2日にガレオン国際空港のATMを利用して以降、当該カードは利用していないことから、その際にスキミング被害に遭った可能性が高い）

オ 窃盗事件

2月1日（日）午後7時30分頃、セントロ地区のマルケス・デ・サプカイ（Marques de Sapucaí）通りにおいて、邦人観光客が（カーニバルに向けた）ダンス練習を見物していたところ、背中に担いでいたカバン（i-phone, カメラ, 腕時計等時価合計約50万円相当在中）を何者かに奪われた。周辺はダンスを見学する人々で混雑しており、犯人を見つけることは出来なかった。

カ 窃盗事件

2月14日（土）午後9時頃、イパネマ地区のビスコンデ・デ・ピラジャ（Visconde de Piraja）通りとファルメ・デ・アモエド（Farme de Amoedo）通りとの交差点において、邦人がブロッコス（路上パレード）を見物中、不意に何者かに押され、しばらくした後、所持品（i-phone, 財布等）が無くなっていることに気づいた。

キ 窃盗事件

2月14日（土）午後11時頃、コパカバーナ海岸のビーチ内において、邦人観光客が友人らと一緒に景色を見ていたところ、いつの間にか砂浜に置いていたカバン（財布, i-phone等在中）がなくなっていた。

ク 強盗事件

2月16日（月）午後8時頃、セントロ地区プレジテンテ・バルガス（Presidente Vargas）通りを邦人観光客が友人と歩いていたところ、少年グループ（6人）が近づいてきて、いきなり身につけていた金のネックレス（時価約20万円相当）を強奪すると、そのまま逃走した。

ケ 窃盗事件

2月18日（水）午後3時頃、レブロン地区のデルフィン・モレイラ（Delfim Moreira）通りとバルトロメウ・メトレ（Bartolomeu Metre）通りの交差点（12番ポスト付近）の歩道上において、邦人観光客がバスを待っていたところ、脇に置いていたカメラセット一式（時価約30万円相当）が入ったカバンがいつの間にかなくなっていた。

コ 強盗事件

2月23日（月）午前1時頃、ラランジェイラス地区のアリセ（ALICE）通りの97番地付近を邦人が歩いていたところ、年齢20～25歳位、身長約165センチ位の黒人男性が近づいてきて、着用していたシャツの下部に拳

銃を所持している様子見せながら、所持品を出すよう要求した。邦人観光客が、直ちにパソコン、カメラ等（時価総額約25万円相当）が入ったカバンを差し出すと、男はそれを受け取り、走って逃走した。

サ 窃盗事件

2月25日（水）午後11時頃、コパカバーナ地区のミニストロ・ビベイロス・デ・カルロス（Ministro Viveiros de Carlos）通りを邦人観光客が歩いていたところ、突然、後方から男が現れ、邦人が背中に担いでいたバッグ（パソコン、腕時計、タブレット等時価総額約40万円相当在中）を奪うと、コパカバーナ海岸方面に走って逃走した。

シ 短時間誘拐（Secuestoro Relampago）事件

3月15日（日）、リオ市フラメンゴ地区のガソリンスタンドにおいて、短時間誘拐事件が発生し、邦人企業が所有する車両1台が強奪された。

同ガソリンスタンドにおいて、伯人運転者一名が乗車して給油していたところ、銃器で武装した賊3名が突如現れ、車内に入れるよう要求した。運転手がこれに従うと、助手席に1名、後部座席に2名が座り込み、拳銃で脅しながら、約30分間運転を強要し、リオ市北部地方で被害者（運転手）を解放したが、車をそのまま強奪して逃走した。

4. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2015年1月中、リオ州内で短時間誘拐9件（うちリオ市8件）、脅迫7、272件（うちリオ市2、622件）が発生しており、いずれも高い水準で推移している。

6. 日本企業及び在留邦人の安全に関わる諸問題等

本年4月7日以降、フラメンゴ地区のルイ・バルボーザ通り（公邸から至近距離にあり、近隣には日本企業駐在員も多数居住）の無人ビルに、100人を超える貧困者が不法占拠を始めた（周辺には多数の邦人が居住）。リオ市政府が代替え住宅の提供等を示しながら早期の立ち退きを求めたが、不法占拠した住人側はこれを受け入れず、4月14日、州軍警察による強制排除が行われた。排除の過程において、住民側が建物に火をつけるなどの騒ぎとなったが、不法占拠者全員の排除に成功した。

このように、本年に入ってから、邦人が多く居住する南部地区における体感治安の悪化が懸念されており、在リオデジャネイロ日本国総領事館としても、引き続き当地治安当局に対して街頭警備の強化による治安の改善

を求めていく方針。

以上